

1. 基本理念

①日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。(中略)

このため、②誰もが、家庭の経済事情に関わらず学ぶことのできる環境を整備することが重要である。また、高齢になっても意欲があれば社会の支え手として生涯にわたり学び続けることも重要である。③生きている限りいつまでも学べる環境を構築していくことが必要であり、働くことと学ぶことのシームレスな連携ができる生涯能力開発社会、生涯学習社会の実現に向けて取り組む。

教育・人材育成といった人への投資は成長への源泉である。国や企業による個人への投資は、個人の立場に立てば分配の意味を持つ。人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

3. 目指したい人材育成

◎未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

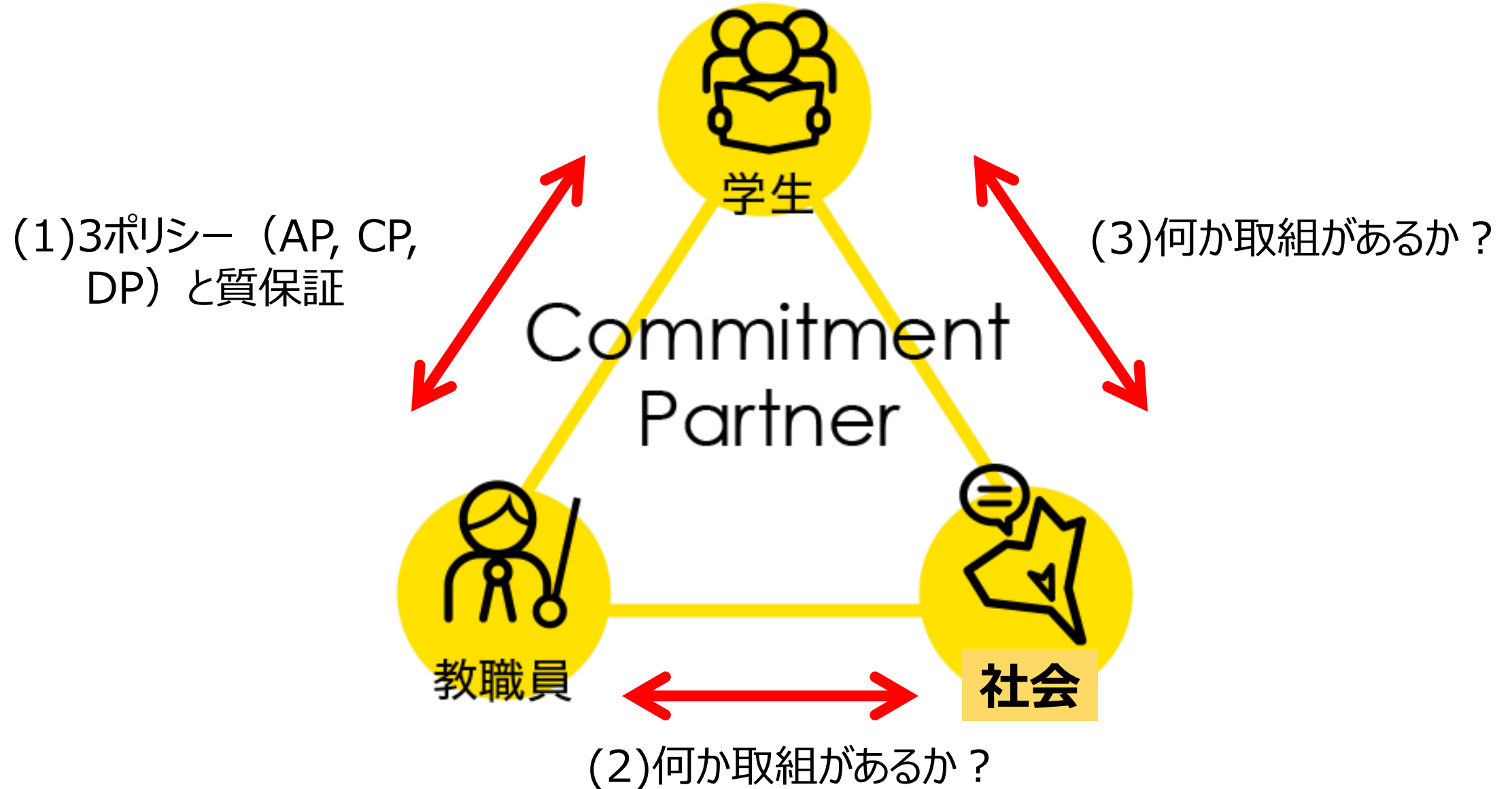
<高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

◎今後特に重視する人材育成の視点⇒産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・予測不可能な時代に必要な④文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・現在女子学生の割合が特に少ない⑤理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・幼児期・義務教育段階から⑥企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

高等教育は3者の相互作用から成るはず！



茨城大学の取組：静的なDPから動的な質保証へ転換する



2つのキーアクション

- ・コミットメント・セレモニー：入学時にDPを示し、学習から学修への転換を促す
- ・教学マネジメント：DPで学生の学びの成長を、入学時から卒業時までみる



2017年度入学式後のコミットメントセレモニー

第一次提言と本学のDPを比べてみる

教育未来創造会議 第一次提言

<高等教育で培う資質・能力>

リテラシー

論理的思考力・規範的判断力

課題発見・解決能力

未来社会を構想・設計する力

高度専門職に必要な知識・能力



茨城大学のディプロマポリシー（DP）

1.世界の俯瞰的理解

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

2.専門分野の学力

専門職業人としての知識・技能及び専門分野における十分な見識

3.課題解決能力・コミュニケーション力

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力

4.社会人としての姿勢

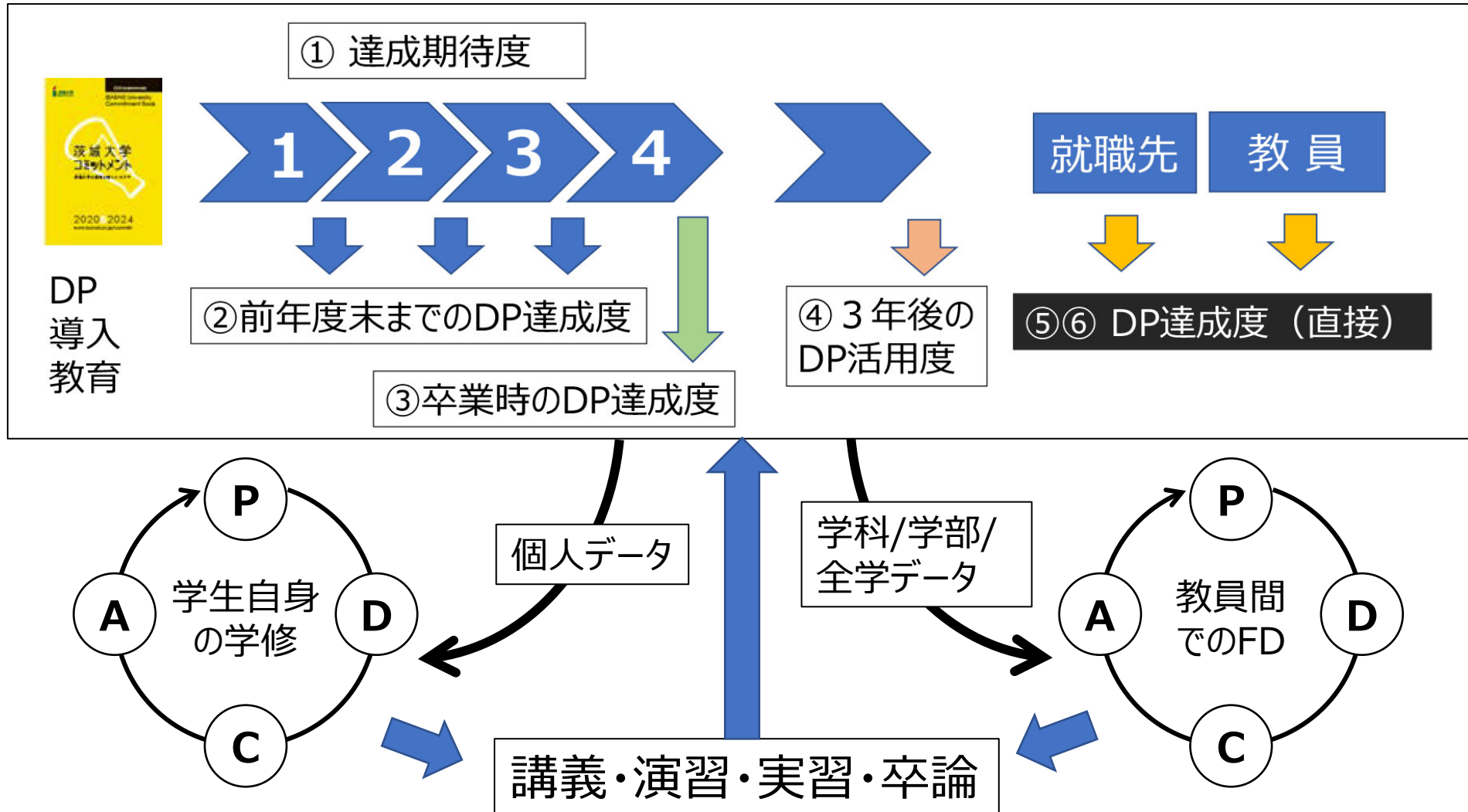
社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性

5.地域活性化志向

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

(1) + (2)[+ (3)]を目指した教学マネジメントの仕組みの設計 :

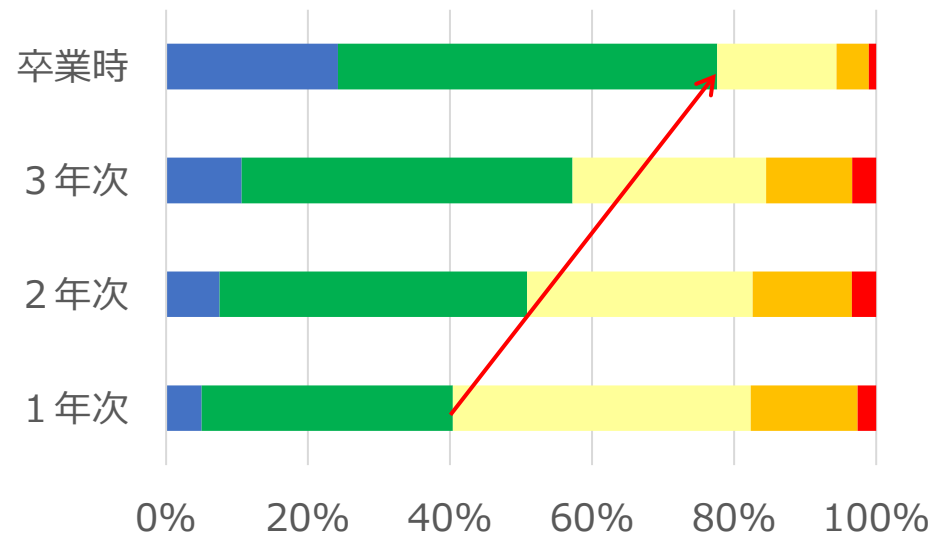
DPで学生の学びの成長を、入学時から卒業時までみる



(1)の関係：学生←教職員 <年次進行と学修成果（DP達成度）の状況>

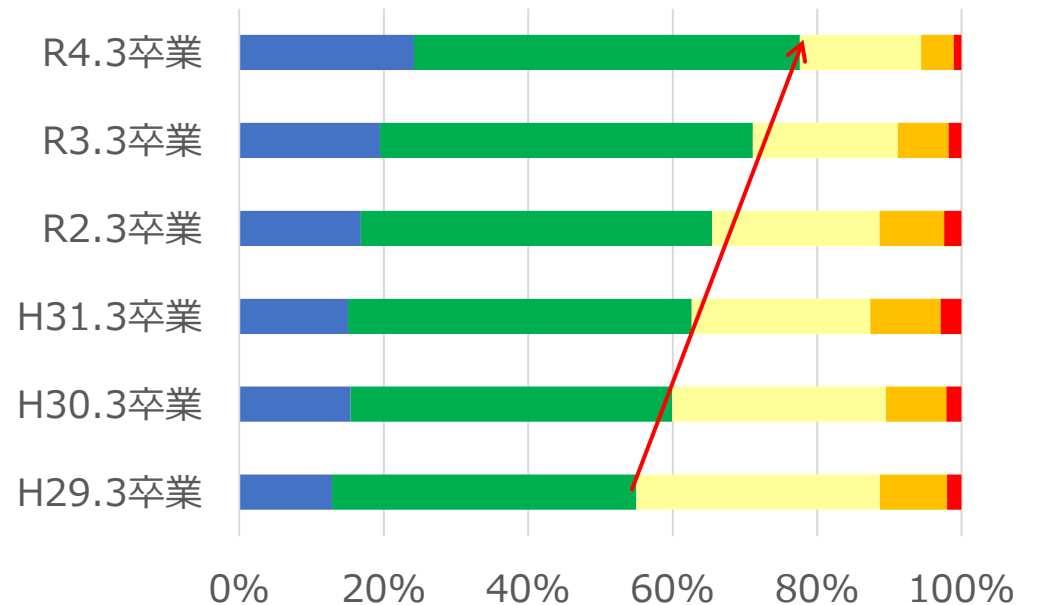
① 各学年での学習成果

2018年度入学生(R4.3卒)を追跡



② 卒業時の学習成果

卒業時の学習成果の経年変化



点検評価：①学年が上がるにつれて学習成果（DP達成度）は向上
②AP事業開始以降、卒業時の学習成果も向上

■ 達成 ■ 概ね達成 ■ どちらともいえない ■ 一部未達成 ■ 未達成

(1)の関係：学生→教職員<卒業生の振り返りと教育プログラム評価>

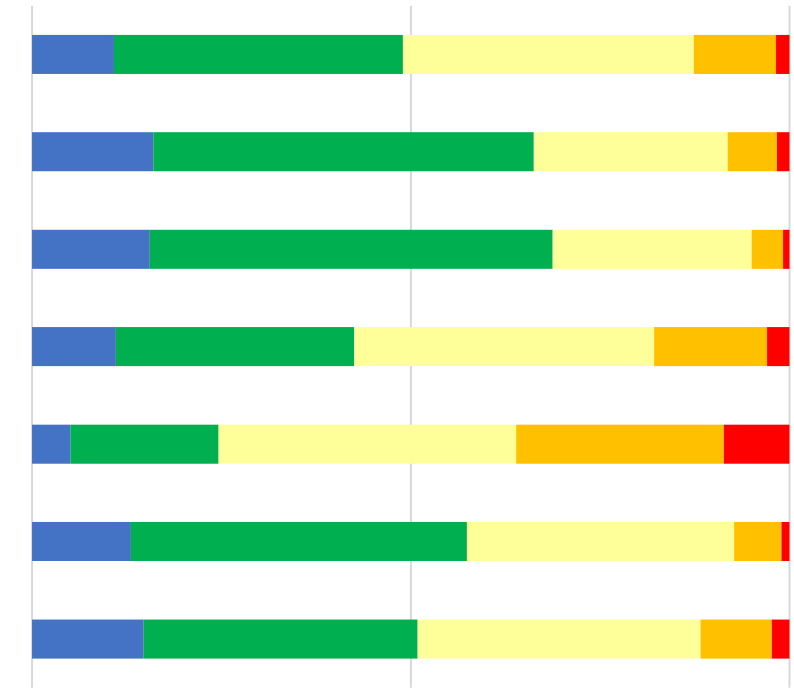
③ 卒業時の学習成果



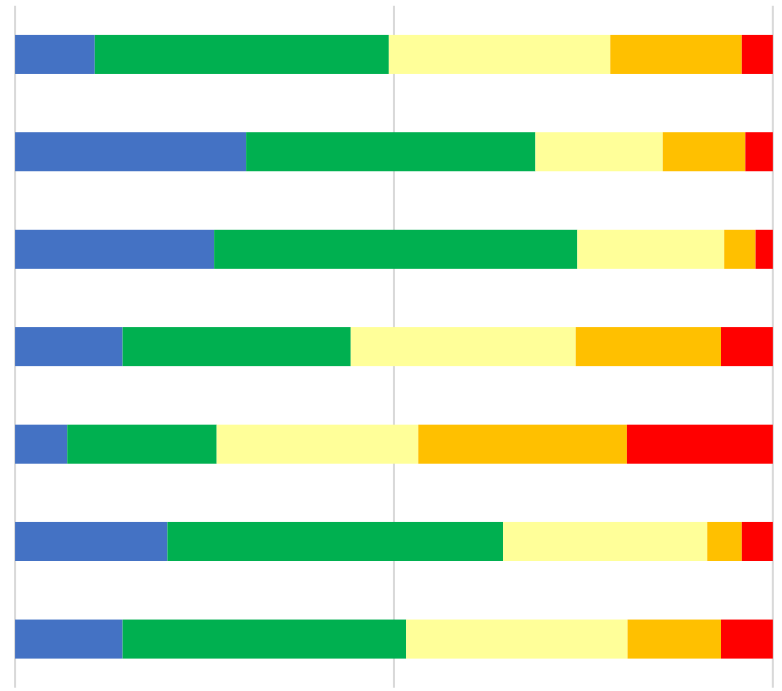
④ 3年後の活用度合い

平成29年3月卒業生

令和2年1月調査



俯瞰的視野
 専門分野の学力
 課題解決力
 コミュニケーション力
 実践的英語力
 社会人としての姿勢
 地域活性化志向



0% 50% 100%

0% 50% 100%

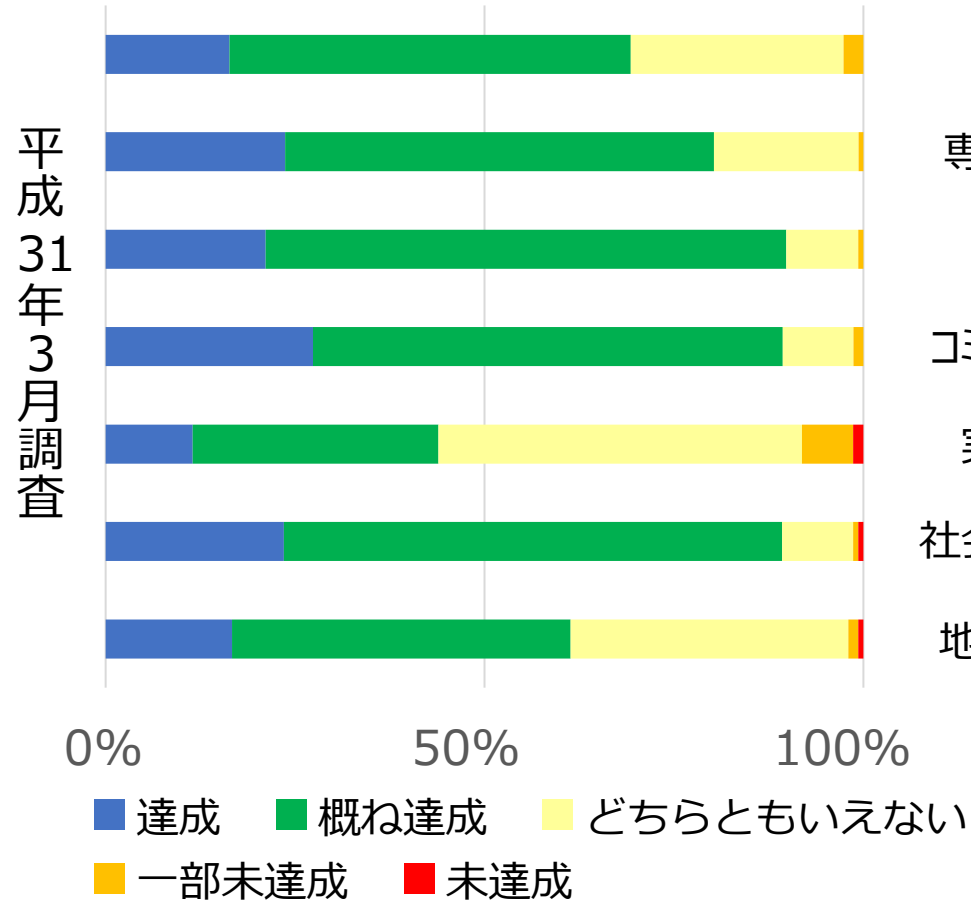
■ 達成 ■ 概ね達成 ■ どちらともいえない
 ■ 一部未達成 ■ 未達成

■ 十分活用 ■ 概ね活用 ■ どちらともいえない
 ■ 一部活用できず ■ 活用できず

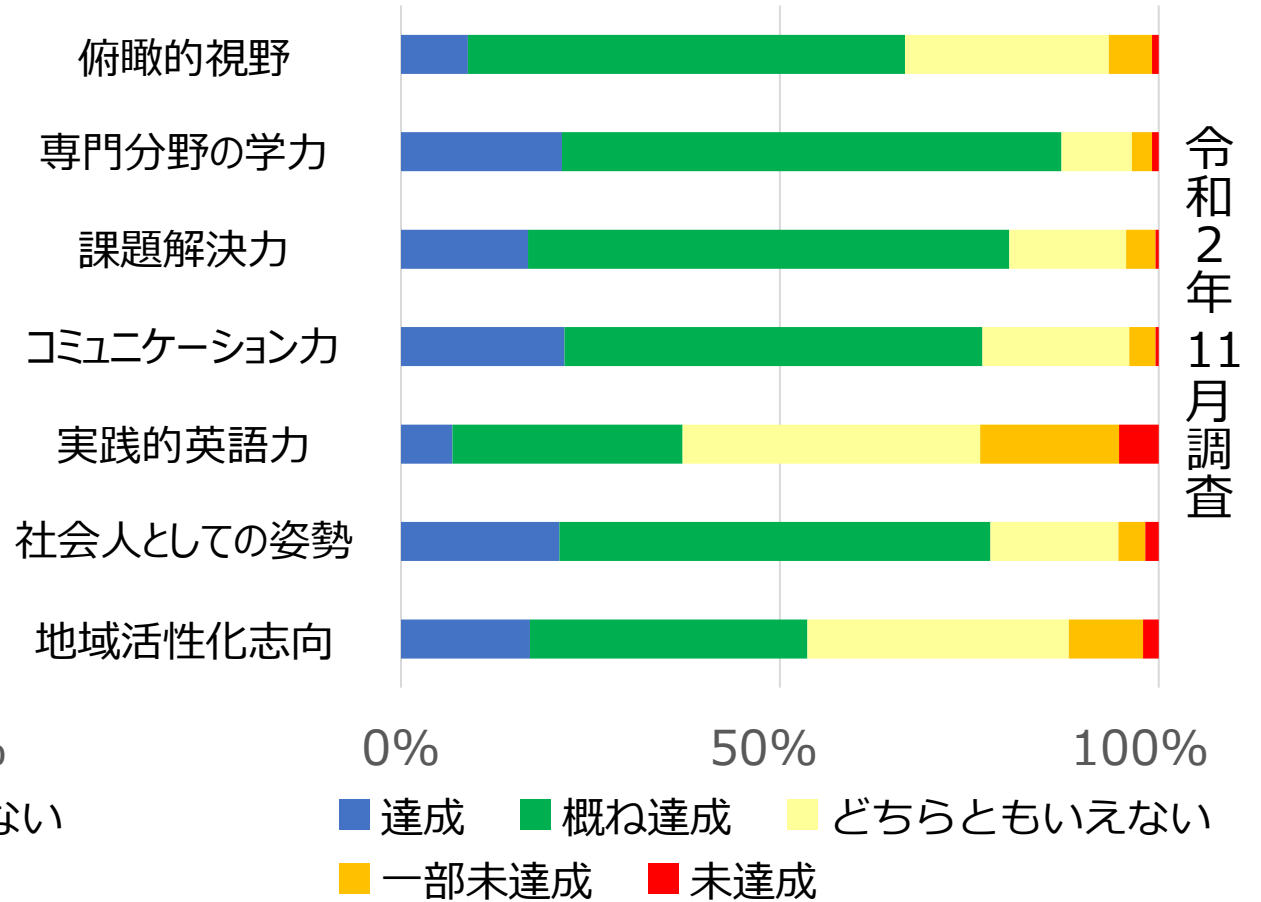
点検評価：卒業時に身につけた力は、社会で活用できる

(2)の関係：社会→教職員 <教職員と社会の評価は相関するか>

⑤ 就職先による評価



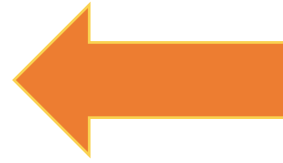
⑥ 教員による評価



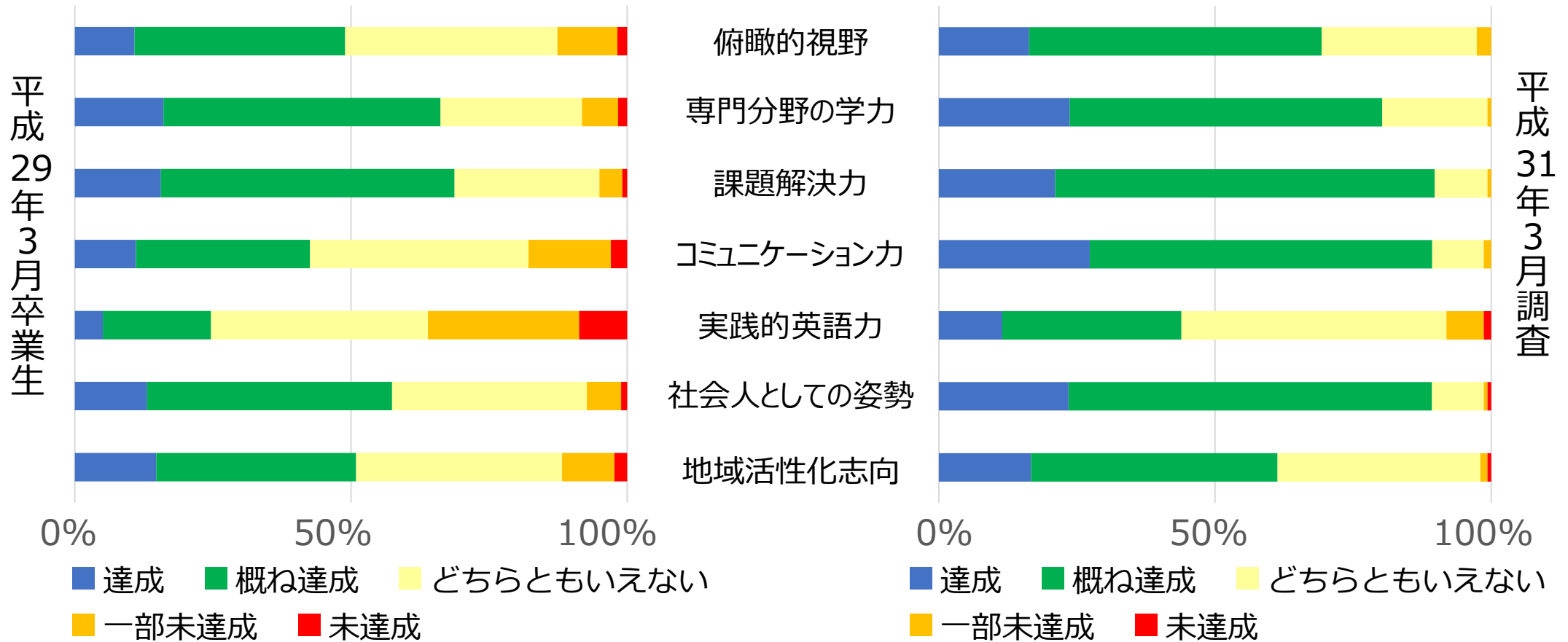
教員からの評価と企業のみなさまとの評価はほぼ一致

(3)の関係：社会→学生(+教職員) <就職先からの教育状況の評価>⁹

③ 卒業時の学習成果



⑤ 就職先による評価



点検評価：社会からの相応な教育の評価がある

教育の連続性と質保証のあり方とは

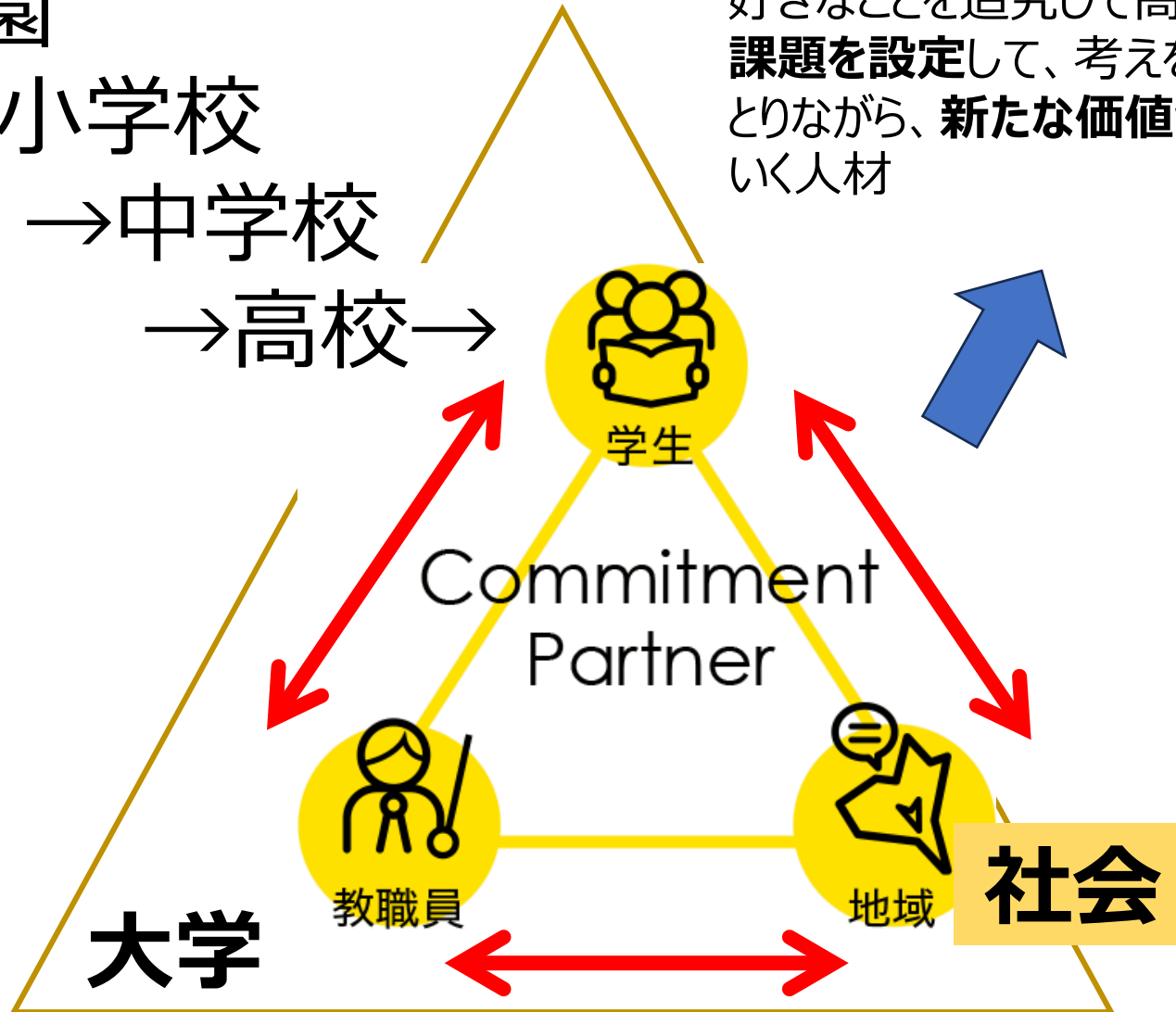
幼稚園

→小学校

→中学校

→高校→

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、**自分自身で課題を設定**して、考えを深く掘り下げ、**多様な人とコミュニケーション**をとりながら、**新たな価値やビジョンを創造**し、社会課題の解決を図っていく人材



★教育成果における**直接評価**と**間接評価**の関係性を探り、後者の有用性。↓

★一般に、学修成果の把握では、直接評価（就職先、教員等が測る手法）が重視されてきたが、本事業では間接評価（学生の主観によるディプロマ・ポリシーの達成度などの学修成果を測る手法）を体系化し、直接評価との関係性を調査、論究。↓

★その結果、直接評価と間接評価の間には正の相関があり、間接評価の有用性が示されただけでなく、学生に「学びの実感」を確認してもらう“間接評価”を全教職員で共有することで、全学的な学修成果の総体は十分に向上。

～新たな高大接続の取組みに向けて～

